

さくらだより【13号】



2011年10月20日発行

聖路加国際病院の日野原重明先生が今年の10月4日に100歳の誕生日を迎えたという記事がありました。まだ第一線で活躍している先生です。

どのような健康管理をしておられるか興味を持ちました。100歳まで生きるのに必要なものはまず健康、お金、家族、仕事などの生きがい、趣味や好奇心が考えられますが、先生は全てをもち、充実した人生を送っているのでしょう。

朝日新聞によりますと、自分の長寿を望みますかというアンケート(4144人)をとった結果35%がはいと65%がいいえと考えていると報告されています。若い人や子育て中の女性にはまだぴんとこない内容かもしれませんが、親の介護に関わりはじめる年齢になってくると、そう安閑とはしてられないテーマです。今の日本の現状と将来の不安を考えると命は大切だという根幹はわかっているものの「いいえ」と首を横にふる人が多いのもうなずけます。あなたはどうか考えますか。

2011年度5月～8月のARTの成績を報告いたします。

採卵件数・・・105例【～29歳7例、30～34歳16例、35～39歳38例、40歳～44例】

受精方法別 {
体外受精・・・86例
顕微授精・・・19例

融解件数・・・84例【～29歳5例、30～34歳28例、35～39歳39例、40歳～12例】

移植件数・・・94例【～29歳7例、30～34歳31例、35～39歳42例、40歳～14例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・40例(42.6%)

【～29歳2例(28.6%)、30～34歳18例(58.1%)、
35～39歳17例(40.5%)、40歳～3例(21.4%)】

40歳以上の件数が多くなっています。更なる工夫を加え、妊娠率を上昇させたいとスタッフ一同頑張っています。

